

三条市未来経済協創タスクフォース 雇用競争力強化ワーキンググループ
第1回会議 議事要旨

令和4年8月1日（月） 午前10時から正午
三条市図書館棟複合施設「まちやま」

1 出席者

委員（五十音順）：

岡部 美咲	株式会社サカタ製作所 総務経理課主任
柏崎 亮太	三条市労働環境改善・雇用競争力強化コンサルタント
金子 薫	カネコ総業株式会社 代表取締役社長
小林 雅俊	株式会社コロナ 総務部次長
齋藤 一成	株式会社マルサ 代表取締役社長
高橋 竜也	株式会社高儀 代表取締役社長
永井 元章	三条市立大学 地域連携キャリアセンター長

三条市（事務局）：

片野 義孝	経済部長
井澤 俊和	経済部部主幹（三条市未来経済協創担当）
澤 正史	経済部部主幹（マーケティング担当）
今井 智之	経済部商工課長
織原 勇人	経済部商工課商工係主査
小林 真奈	経済部商工課商工係主事

2 議事要旨

(1) 雇用競争力強化ワーキンググループの設置について

資料 No. 3 について事務局（井澤経済部部主幹）より説明。特段意見等はなし。

(2) 会議の運営について

資料 No. 4 について事務局（井澤経済部部主幹）より説明。全委員の承認を得たことから、提案内容（資料No.4）のとおり取り扱うことを決定した。

(3) 雇用競争力強化ワーキンググループの進め方について

資料 No. 5 に基づき柏崎委員（三条市雇用競争力強化コンサルタント）が説明。

（主な意見）

- ・ 現状と目標を考えるに当たって、「いつまでに」という期間を定めるべきである。

〔4〕 労働環境・雇用競争力の観点における目指す姿と現状の課題等について

資料 No. 6 に基づき柏崎委員（三条市雇用競争力強化コンサルタント）が説明
（主な意見）

- ・ 最近は特に廃業する事業者が多く、加工、外注先の廃業を受けて、それを内製化しようと試みるケースもあるが、それを担う人材が足りない。
- ・ 若い人は新しい商売の仕方をしている。例えばネット販売など、直接お客様とやり取りする方法が多い。
- ・ 若者の交流人口が増えるとういのではないか。競い合う風土が若者の間で出てくると、若い人が起業したいという気持ちにもなるのではないか。そのような相乗効果の中で、雇用や交流人口が増えるのではないかと思っている。
- ・ 最近の若者の就職活動の動向について言うと、一部の一般認知度が高い企業に応募が偏っているようだ。つまり、認知度の低い企業は就職の選択肢にすら入っていない。また、最近プライベートとの充実を重視している傾向が強く、同じ給料、同じ規模であれば休日数が少ない方は選ばれにくい。
- ・ 求職者の中には「三条市で働きたい」というよりは、「燕三条地域で働きたい」「自宅から30分以内の場所で働きたい」という人が多い。そのため、「三条市で働きたい」と思わせるより、「三条市のこの企業で働きたい」と思わせることが大切である。
- ・ 仕事内容がわかりにくく、伝わっていない、あるいは探しにくいという現状があるのではないか。
- ・ 以前は新潟県内の企業と競っていたが、今は全国の企業と競う必要が出てきている。何か違う視点できっかけを作るのか、あるいは見つけるのかしなければ若者を中心に他の地域に出て行ってしまう。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で学生の就職活動の様相が大きく変わっている。他県の事例でも県外に出ていく人が増えているようだ。オンライン面接などが活用されることで、居住地から遠い地域でも受けやすくなっている。
- ・ 9月から三条市立大学の産学連携実習が始まるが、県外の学生が多いこともあり、実習先が有名な企業や授業の中で触れた企業に偏っている状況がある。福利厚生が良いというだけでなく、学生に選ばれる企業になるためには、認知度の高い企業や学生との接点をいかに持てるかが重要である。
- ・ 学生が企業を探すときには、必ずホームページを見るので、ホームページの充実を図ることが必要。顧客目線だけでなく、学生向けコンテンツの充実があると良い。
- ・ この地域は従業員5人以下くらいの小さな企業多く、そのような企業にとって情報発信の充実は難しい。
- ・ 三条市の企業は規模が小さく、1つの工程しか持っていないところが多いため、下請けのようになってしまう。自社製品を持っている企業はPRがしやすいので、そのような将来像を目指す枠組みを行政が支援できるとよいので

はないか。

- ・ 部品を作っているような会社はあまり知られていない。また、部品メーカーで見られる毎日毎日同じ作業を行うといった仕事を今の若者は好まないようだ。
- ・ 三条市の特長として、製造業と卸売業がかなり強い。この2業種が強いうちに別の新しい強みを見つける、即ち三条市にない業種の企業誘致をするべきではないか。企業を誘致することが様々な面で三条市に良い影響をもたらすのではないか。
- ・ 女性が多く働く企業は長期休業に入る従業員の代替を見つけるのがかなり大変な状況がある。給料云々以前に人を見つけるのに苦慮している状況である。
- ・ 営業職の新卒採用が難しい。県内の学生は県外転勤を嫌う人が結構いる印象で県内志向が強い。会社としては、県外で働くことでキャリアアップも図れると考えているので、そこが懸念事項である。
- ・ 転勤を嫌うケースは採用の段階だけでなく、現職の社員の中でもある。転勤を要さない働き方ができると良いとは思いますが、現状、実際の営業活動を考えると難しい。
- ・ シニア人材に関して、今の60歳、65歳は元気で、長く活躍できる期待がある。一方で、それにより若手の活躍の機会が減り、若手が育たないという懸念もある。例えば上手くいくケースとして、上の人には一定のポジションまで退いてもらって、若手のサポート、育成に回ってもらうというのがある。また、退いた人の活躍する場所がないというのはもったいないので、市内で上手くマッチングするというのもよいと思う。